

太宰府市俳句ポスト百十九回入選者

令和五年五月十日〜令和五年八月八日

入選句

選者 阿比留 初見

神官の器用不器用梅ちぎり	福岡市	白井	道義
古墳めく丘の茅花流しかな	太宰府市	松尾	満子
山気吸ひ耳遊ばする夏の山	太宰府市	福永	惠美
本殿の桧皮も深く苔の花	大野城市	北	嘉与子
水音の聞こゆる山路木下闇	筑紫野市	笹倉	裕子
墓の子の手足ふんばる山路かな	太宰府市	吉田	秀子
夕方の散歩コースの青田道	太宰府市	兼田	和加子
花菖蒲ひとりでめぐる心字池	太宰府市	安達	奈津
少々のしやれも勇氣の薄暑かな	太宰府市	木村	順子
みぎひだり呟き潜る茅の輪かな	春日市	永利	五十鈴
玄昉墓訪へば夏草絡みつく	福岡市	阿部	弘子
夏めいて菩提樹薫る院の庭	筑紫野市	寒竹	賢次
かさかさど鳴らしどくだみ干されをり	那珂川市	池田	ひさ絵
新緑のゆうえんちの声にぎやかな	沖繩県	赤嶺	絢音
大鳥居くぐるひとりや梅雨の宮	太宰府市	有岡	和砂
本読むとねむたくなつちやう春の風	太宰府市	後藤	みな
ちちの日はなにをあげようまようんだ	太宰府市	渡辺	彩夏
おやしるの緑の天と青い空	春日市	井上	華
紫のしょうぶがいつぱい神の池	太宰府市	後藤	彩那
観世音寺ついてみたいな除夜の鐘	太宰府市	二宮	晴

十歳

十歳

十歳